

一部新規

担当 こども支援課 放課後児童クラブ担当 内線 3322
こどもの居場所担当 内線 3348

目的

小学校への登校時間が、保育所の預かり開始時間より遅いことによる、いわゆる「朝の小1の壁」を解消するため、小学校開始前の朝の時間にこどもを預かる場を整備するモデル事業を実施する。

また、こども・若者が安心して過ごすことができる、こども食堂等のこどもの居場所の新規立ち上げと継続的な運営等を包括的に支援する。

事業概要

1 朝のこどもの居場所づくり

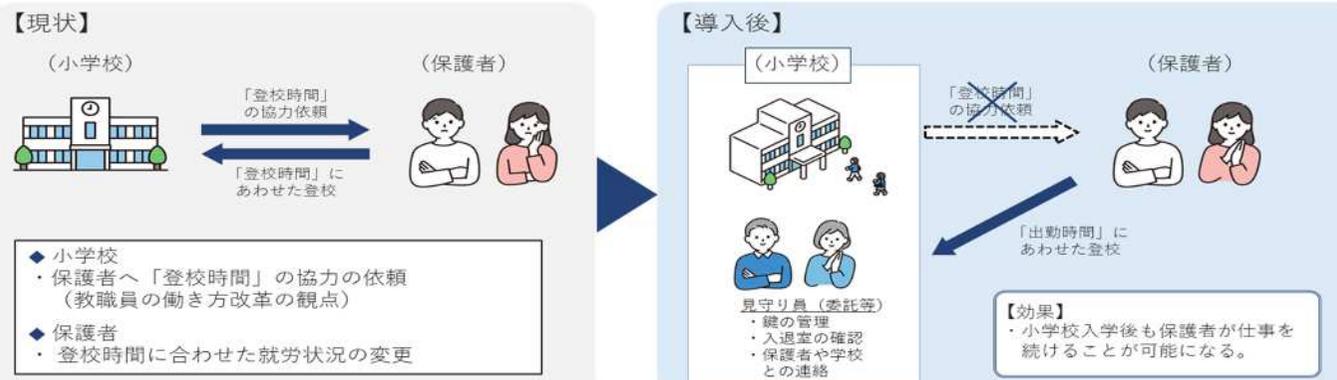
5,574千円

(1) 朝のこどもの居場所づくりモデル事業（新規）

5,574千円

- 小学校等に見守り員を配置し、こどもを見守る「朝のこどもの居場所づくり」の整備をモデル事業として取り組む市町村に対して補助を実施・検証を行う。

（事業イメージ）



寄附募集事業

2 こどもの居場所づくりの支援

26,545千円

(1) こども・若者と共につくる居場所づくりの支援

26,545千円

こどもの居場所の認知拡大及び潜在的な担い手、支援者の掘り起こしのため、「こどもの居場所フェア埼玉」を開催する。

また、「こどもの居場所づくりアドバイザー」を各地域に派遣し、こどもの居場所の新規立ち上げと継続的な運営を支援する。



「こどもの居場所フェア埼玉」の開催の様子

こども食堂応援プロジェクト

背景・現状

◆「こどもの居場所」の可能性

民間主導の取組であるこども食堂、学習支援、プレーパーク、多世代交流拠点などの「こどもの居場所」は、食べたり遊んだりするだけでなく、こどもが信頼できる大人と出会うことで自己肯定感を高めることが期待できるなど、社会全体でこどもを育てる拠点として、様々な可能性を秘めています。

◆埼玉県としてできること

全てのこどもが生まれ育った環境に左右されず同じスタートラインに立てる社会を目指し、こどもの居場所づくりを行う民間団体等を応援します。

事業目標

埼玉県のこどもの居場所数

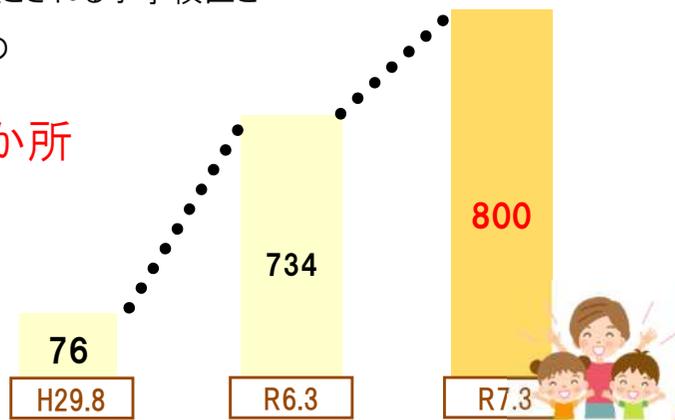
◆こどもが安全に歩いて

通える距離とされる小学校区と

同数程度の

800か所

を目指す



事業内容

こどもの居場所フェアの開催

- ◆ こども食堂やプレーパークなど、こどもの居場所を体験
- ◆ こどもの居場所の運営者×企業等団体のマッチング交流会



支援者

担い手

マッチング推進

ポータルサイトによるマッチング掲示板を通じて、支援したい企業・団体と、こどもの居場所団体が気軽に情報交換



アドバイザー派遣

専門的な知識・経験を持った個人・団体をアドバイザーとして派遣し、こどもの居場所の立ち上げ・継続的な活動を支援



派遣

